



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会

〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏

tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009

URL: <https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp

発行 月報編集委員会 発行日 2018 年 12 月 2 日 No. 55



礼拝献花より

それでまた、この方は常に生きて
いて、人々のために執り成してお
られるので、御自分を通して神に
近づく人たちを、完全に救うこと
がおできになります。

ヘブライ人への手紙 7 章 25 節



シリウス説教

『徹底的な愛』

牧師 佐藤和宏

マルコ12章41節～44節

十戒の第一の戒めは、「あなたはわ

たしのほかに、なにものをも神としてはならない」と命じています。第一の戒めとして命じられているのですから、信仰というものはここから始まるのが期待されているのでしょう。ルターは「唯一の神」について次のように書いています。「ひとりの神とは、人間がいつさいのよいものを期待すべきかた、あらゆる困窮に際して避け所とすべきかたである」と。このことから、ルターはこの戒めについて次のように理解していることがわかります。「わたしのほかに、なにものをも神としてはならない」とは、「わたしが神であって、ほかのなにものもすべて排斥すべきである」と命じているのではなく、「わたしがあなたがたによいものを与え、あなたがたの困窮の際に避け所となる神であり、ほかのなにものでもない」と約束しておられるという

ことです。つまり、この第一の戒めは神への信仰を命じるだけではなく、それ以上にこの神だけが「よいものを期待すべきかた」であり、「困窮の際、避け所となるかた」である私たち人間に対する愛を真の約束として明らかにしているのです。

ルーテル教会では、「恵みのみ」あるいは「100%の恵み」と言いますが、私たちに「よいものを与え」「避け所となる」神の恵みがすべてであることを言い表しています。そしてこの神の100%の恵みに信頼することは、すべてを神に信頼し、すべてを献げ、それ以外をいつさい頼りとしなないということであり、それは二人の女性の態度に表されています。

続いてルターが第一の戒めについて言っていることは、「信仰と神」についてです。「金と財」に依り頼む者は、持っているにしても持たないにしてもそれらに心奪われていると、ルターは指摘しています。しかし、私たちは多くの場面で持たないこと、足りないこと、そのような現実に関心惑わされてしまうことが少なくありません。例えば教会の財政が厳しい現実には、教会の未来はどうな

るか、と誰もが心惑うでしょう。しかし、ルターはそのような私たちにも明確に言っているのです。たとえばそのような現実には置かれたとしても、ひたすらイエス・キリストに信頼することが信仰である。なぜなら「わたしのほかになにものをも神としてはならない」と言われる神は、その愛のゆえに私たちによいものを与え、私たちの困窮の際に避け所となる神だからです。私たちが心配でならないことを放って置かれる神ではないのです。私たちの心配よりも先にすべてを理解し、すべてに答える神であるのです。そして事実、私たちの神は、御子イエス・キリストに十字架の死を遂げさせ、私たちの罪の赦しを実現させるほど、徹底的に私たちを愛されたのです。この神にすべてを委ねること、たとえ私たちの思うように、思う時に答えが与えられないように見えたとしても、それも含めてすべて委ねること、これこそ第一の戒めで明らかにされた神の約束に信頼することなのです。

サレプタのやもめは、最後の一握りを自分のものと確保するのではなく、神の人のために用いました。2枚のレ

プトン銅貨を献金した女性は、主イエスに「だれよりも多く入れた」と称賛されました。ルターが指摘するように「何も持たない者は、思い惑い、気落ちしてしまふものです。しかし、聖書に登場した二人の女性は、持たないことに思い惑い、気落ちしてしまふのではなく、すべてを委ねたのでした。これこそ本當の神に心をつなぎ、信頼を寄せることにほかなりません。「金と財とを持たなくとも嘆かず、悲しまず」に、ただ真の神にひたすら信頼しているのです。

私たちは、その手に十分持たないことが少なくありませんし、「何も持たないために、また自分の弱さのゆえに、思い惑い、気落ちして」しまふことがあるでしょう。しかし私たちがの主なる神は、私たちによいものを与え、困窮の際には避け所となると力強い約束を宣言しておられるのです。この神の徹底的な愛を100%の恵みとしていただいて、私たちは「自分のすべてを100%喜んで献げる」一人ひとりと変えられて、生き始めるのです。

(聖霊降臨後第26主日)

講演会を聴いて

○山剛

10月28日、伊藤悟先生（青山学院大学教授）の、「聖書が示す人生の知恵」と題する講演を拝聴した。

まず、知恵と知識は違う。知識をどう使うかということが知恵である。新しいぶどう酒は新しい革袋に入れよう。我々は日々変化しているが、変えるべきものを変えてゆく勇気を、そして変えることのできないものと変えるべきものを識別する知恵を与えてくださいとお願いしたい。



現代は、極度にストレスを抱えた社会である。政治への不信と不安は高まり、精神疾患、ストレス、自殺率は上昇している。アメリカでは、銃の乱射は週に一回起こっているという。アメリカの学生の39%が鬱病にかかっているとの報告もあり、家族、学校、教会の三本柱が瓦解しているという、かつて経験したことのない時代を迎えている。

アメリカでは、とくに若い人達にいずれの宗教にも属さない人が増えており、あちこちの教会がつぶれかかって「For Sale」「dying church」などが見られる。キリスト教の会員と教会への出席者数は、1972年から2016年の間に急速にダウンして、無宗教者が増加している。

宗教改革500年は、アメリカでは全く盛り上がりなかったという。神学者フリンホールド・ニーバーの祈りに「変えることのできるものを受け入れる冷静さと、変えるべきものを変える勇気を、そして変えることのできないものと、変えるべきものとを識別する知恵を与えてください」とあるが、現代はまさに、共感と思いやりの危機といつてよいのではなからうか。

バザーでの

教会員の力の結集

○田○子

教会バザーは無事終了しました。バザー委員会による計画立案から始まり、バザー用商品の収集、一週間前の会場設定、前々日・前日に渡る品物の分類・値付けやおでん等料理の下ごしらえ、また各自の自宅での作業等、多くの教会員が関わっての下準備がなされました。私はその下

準備に参加出来ませんでした。そんな陰の力があつたからこそ、教会バザーは実地されました。

当日の販売でも老若男女、たくさん教会員が力を発揮されたのはもちろんの事、その後の後片付け、残った品物の整理や処分等、多くの方々が労力を費やして下さいました。

神様に支えられて、教会員一人ひとりの力が結集しての教会バザーでした。一個人として、藤が丘教会員の底力を感じさせて頂きました。



■ホームカミングデー

11月25日(日)、ホームカミングデーが開催されました。今年は藤が丘教会の最初の礼拝から、35年にあ



たる記念の年でした。礼拝には、初代牧師の江口再起先生をお迎えしました。今年も懐かしい方々がご参集くださり、35年を懐かしく振り返ることができました。

詳細は次号でなされる予定です。が、皆さんの笑顔が素敵でしたので、写真の一部を掲載し、当日の雰囲気をお分かちいたします。

尚、来年も日程は未定ですが、開催予定ですので、ぜひお越しください。最後になりましたが、準備に携わってくださったすべての方々に、紙面をお借りして感謝します。



■教会の動向



11月の教会は、3日にバザーが開催されました。翌4日(日)礼拝は、全聖徒主日として守られ、召された方々を覚え、共に礼拝のときを過ごしました。礼拝後には、定例役員会

■記念誌完成!

藤が丘教会宣教35年を記念して、「宣教35年のあゆみ」を発行いたしました。写真は、当教会ホームページのために用意された、重富克彦牧師の作品が用いられています。



が開かれました。7日は聖研がありました。

11日(日)礼拝後、信徒懇談会が開かれました。14日はお仕事会のお疲れ様会がありました。16日、洗礼後の学びがありました。

18日(日)礼拝後、伝道支援委員会、女性会がありました。15時から東教区全役員協議会が開かれました。21日、聖研がありました。

25日(日)は、ホームカミングデーとして礼拝と交わりの時が与えられました。今年是最初の礼拝からちょうど35年にあたります。江口再起先生をはじめ、久しぶりの方々から当時の様子をお聞きたり、写真によって振り返ったりしました。

■今後の予定

12月8日(土) 18時半

クリスマスコンサート

ゴスペル・山路唯

12月23日(日) 10時半

クリスマス礼拝

12月24日(月) 18時 イブ礼拝

皆さんのご健康のために、日々お祈りしています。